



TITLE:

孟蘭盆會とは

AUTHOR(S):

CITATION:

孟蘭盆會とは. 天界 1939, 19(220): 306-306

ISSUE DATE:

1939-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167847>

RIGHT:

“ “ , 駁座 AII 星.

極小 = J. D. 2425271.366 + 0.49417 × E (Prager 氏, 1929年) 極大 10.47,
第一極小 10.72, 第二極小 10.68.

“ “ , 髮座 SS 星.

極小 = J. D. 2428584.492 + 0.412789 × E (Prager 氏, 1929年), 極大 10.92,
第一極小 11.52, 第二極小 11.49.

“ “ , 水瓶座 UW 星.

1935年8月中340枚の寫眞より, 光度 10.84 に一定して, 變光せざるを見る.

V. B. Nikonov 氏, 1936—1937年中の白鳥座 P 星の光電觀測. 殆んど變光せず.

“ “ , 牛座 ε 星の光電觀測. 減光系数 0.740 を用ふ.

極小 = J. D. 2399607.538 + 3.9529507 + E - 0.0255 sin (0.2637 × E - 59.1°) 第3體
の影響あり?

V. A. Ambarzumian 及 Sh. G. Gordeladse 氏, 散開星雲と宇宙吸收.

Sh. G. Gordeladse 氏, 新星爆發最終期の溫度.

“ “ , 新星爆發中に噴出するエネルギー量について. 略々 10^{44}
10⁴⁴エルグ.

M. A. Vashakidse 氏, 銀河中心の方角にて銀河面に直角に A, F, G 型星の分布.

E. K. Kharadse 及 M. A. Vashakidse 兩氏, 16吋屈折機の8吋對物玉の球面收差
とアスチグマチズム研究.

Sh. M. Chkhaidse 氏, 太陽輻射と大氣の透明度.

天文臺, 1932—1937年中アバストマ I = 天文臺の研究狀況報告. (山本)

盂蘭盆會とは

盂蘭盆會は盂蘭盆經の說に基いて毎年舊曆七月15日(舊曆)に佛および十方の衆僧に供養して父母乃至七世父母の冥福を祈るを以て本旨とする法會, 盂蘭盆は詳しくは烏藍婆拏(ウランバナ)で救倒懸と譯し, 身を倒に懸けられたような激苦を救ふの意味であるといはれる. 行事の起原としては盂蘭盆經に釋尊十大弟子の一人なる目連が母の在所を見るに餓鬼の中にあつて苦しんでゐたのでどうかしてこれを救ひたいと釋尊に申出たところ, お前一人の力ではどうにもならない, 七月15日に七世の父母のために飲食百味五菓を具へ十方の衆僧に供養し, その力にすがれといはれた. よつてその通りにすると果してその母は餓鬼道の苦を免かれることができたこと記されてある.

この法會は初めインドに起り, 支那, 日本に傳はつたもので, 支那では唐の代宗の時代から行はれし荆楚歲事記]七月15日の條に僧尼道俗こごこくが盆供を營むといふ記事が見えてある. わが國では齊明天皇の三年, 初めて盂蘭盆會を設けた由が日本書紀に見えてゐる.

盂蘭盆會はそもその初めは佛および十方の僧に對する供養であつたが, 後世になり, 一般の在家で行はれるようになってから日本, 支那ともにいつか考妣祖先を祭る法會となり, 殊にわが國においては祖先崇拜の國民性と適合して, 魂祭, 精靈祭の名で呼ばれし盆暮]盆と正月]などといはれるくらゐに年内を二分する大きい行事として今日の盛行なみるに至つてゐる.